

# 序

興福寺では平成10年度から、境内の中心部（中金堂院・南大門）の発掘調査を奈良文化財研究所のご協力を得て実施してきた。それらは「第1期境内整備事業にともなう発掘調査概報」Ⅰ～Ⅴの報告の通りで、当山ではそれらの知見に基づいて、中門・東西回廊・南大門の基壇表示をおこない、現在は平成30年秋の落慶に向け、中金堂平成再建を鋭意進めているところである。

こうした中金堂再興の暁には当然、本願廟の北円堂院をどう整備していくか——、それが問われるであろう。そこで、平成23年7月から10月にかけて、北円堂の南門基壇と回廊の遺構が発掘調査された。この概報は、その調査結果を報告するものである。

このなか、回廊の西面部分はすでに基壇自体が削平されていて如何ともし難いが、南門や南面・東面回廊などの規模が確認された。近い将来、こうした調査結果を基に可能な限り復原整備し、淡海公不比等の本願廟という北円堂院の本来空間を再現したい考えである。

平成24年9月

興福寺貫首 多川俊映